

議 事 録

共同生活支援センターウッズ

会 議 名	令和 7 年度 共同生活支援センターウッズ 地域連携推進会議		
日 時	令和 7 年 11 月 14 日 (金) 10:00～12:00		
開催場所	グループホーム ふなの木 、 グループホーム 栗の木		
出席者名	利用者 2 名 (ふなの木、栗の木各 1 名)、利用者家族 2 名、 地域の関係者 1 名、福祉に知見のある人 2 名、施設職員 2 名		
記 録 者	北川	作 成 日	令和 7 年 11 月 19 日

議 題
1. 開会あいさつ 2. 出席者紹介 3. 施設見学(ふなの木、栗の木) 4. 利用者の皆さんの日常生活の様子について 5. ご質問や意見交換 6. 閉会のあいさつ

議 事 内 容
1. <u>開会のあいさつ</u> ・開会のあいさつがあり、地域連携推進会議について会議の趣旨と重要性について説明をした。 2. <u>出席者紹介</u> ・出席者全員が自己紹介を行った。 3. <u>施設見学(ふなの木、栗の木)</u> ・共有スペース(リビング、お風呂、洗濯場)、各利用者さんの居室 4. <u>利用者の皆さんの日常生活の様子について</u> ・日常生活の様子をまとめた写真動画を流す ・食事の献立について →日常の朝食、夕食の写真、行事食の写真を提示 毎回、第 3 者が食事を見に行くことも難しいため、不定期に施設携帯へ写真を送ってもらい、食事量、バランス、経費より購入したものに不正がないか確認をしている。

・服薬確認について

→服用されているものを受診記録、処方箋を5人分1冊のファイルで管理をし、服薬に迷った時には、いつでも確認ができるようにしている。

服用時には、①「日時、名前」があっているか、利用者自身と確認をする

②利用者の飲み方に応じて、「自分で飲む」、「粒はカップに入れる」、「支援者が口に入れる」等の対応

③確実に内服出来ているか、最後まで見守りを行っている

・個別支援について

→ひとりひとりの希望に応じたものになっている

入浴については、個別に順番で入浴をしている。利用者の状態に合わせ、希望によっては、入浴時に支援者が浴室に入り、見えない部分、背中などの手の届かないところの手助けを行っている。

支援者が異性になる時には、扉越しに声をかけ、体調の変化を窺い、もしもの時に対応できるようにしている。

外出支援に関しても、個別に応じた対応を行っている。移動支援サービスの利用では、支援者が行き先の希望を聞き、移動支援事業所と日程調整等を行っている。

5. ご質問や意見交換

《福祉に知見のある人》

・食事のバランスも良く、ボリュームもあり、素晴らしいと思う。食費について、毎食1食350円で賄えているのか。

→親御さんや畑好きの職員からご厚意で野菜を頂くこともあり、賄えている部分はある。正直、物価が高騰している為、ギリギリの状態である。今後、食費の値上げは検討している。

・家賃も安いのではないか。大学の学生さんで話を聞くと、1ルームで7万近くかかっている子もいる。

企業がグループホームの経営を乗り出している中で、支援者が大学生のアルバイトであるということもよく聞く、社会福祉法人ということもあり、質の高い支援がなされていると感じる。

・費用について、年金2級の方は、年金でやっていけるのか。

→年金に物価高騰による給付費が上乘せられているので、年金内で賄えている。

《地域の関係者》

・簾笥のの高さが高い人がみえるので、地震の時にベッド側に倒れてきて危険ではないか。

→簾笥の高さを低くする。壁に取り付ける等の対策が必要だと助言を頂く。

・洗濯は毎日行うのか。

→毎日、入浴後にひとりひとり、自分で行っている。シーツ等の大物は日を決めて行っている。

《利用者1》

・夜は、リビングでテレビを見ている。部屋では、金子みすゞさんの詩をノートに書いている。通所先の支援者にそのノートにコメントを書いてもらっている。

柚木先生(創設者)の誕生日は、11月22日です。

→柚木先生の誕生日を覚えているのは、すごい。先生のことが大好きだったよね。柚木先生の理念が今も生かされ、ここには、詰まっていると感じた。

《利用者2》

・部屋で小物作りをしている。粘土で作品を作りました。

→小物作りの材料は、どのように準備しているのか。

→週末、地域バスを利用して、買い物に出掛けられており、その際に材料を購入してきている。

→材料代はどこから出ているのか。

→個々のお小遣いからであり、小物を作ることを趣味とし、楽しみにされている。

《利用者家族》

・我が子は自分の意見を今まで言えなかったが、ここ数年で自分の気持ちを話せるようになってきたので、ありがたい。

・まだ2,3回ではあるがバス停までは、支援者に送ってもらい、グループホームからバスに乗って、ひとりでの帰省が出来ている。母親としては心配であったが、子のできる部分を見極めて、背中を押してもらえてよかった。

→自分でできることをやる、それは、自立への一歩でありよいこと。

6. 閉会の挨拶

・頂いた意見を今後の支援に活かし、引き続き地域との連携を深めるべく協力の依頼をし、閉会した。